



Lacto Japan

会社説明会

2024年8月29日

株式会社ラクト・ジャパン

東証プライム市場上場

証券コード：3139

ラクト・ジャパンとは・・・

- ✓ 乳原料・チーズを中心に食肉・加工品なども扱う食品原料の輸入商社
- ✓ 乳原料・チーズの輸入では、国内トップクラスのシェア
- ✓ 調達力と専門性が強みの源泉
- ✓ 拡大するアジア乳製品市場での事業展開が成長ドライバー
- ✓ 機能性食品原料などの新商材取り扱いにより、さらなる成長を目指す



会社概要

会社名	株式会社ラクト・ジャパン
設 立	1998年 5 月
代表者	代表取締役社長 三浦 元久
本社所在地	東京都中央区
資本金	11億78百万円（2023年11月30日現在）
事業内容	● 乳原料・チーズ、機能性食品原料、食肉加工品等の輸入販売 ● アジアにおける乳原料の輸入販売 ● アジアにおけるチーズ製造販売
上場市場	東証プライム市場 (証券コード 3139)



01 ラクト・ジャパンの事業内容

- 乳原料・チーズ、機能性食品原料、食肉・加工品などの食品原料を輸入する専門商社です



— ラクト・ジャパンが輸入した乳原料・チーズの用途は・・・

- 乳原料の用途は幅広く、皆さまの身近な食品の原料になっています



アイスクリーム



ヨーグルト



ピザ用チーズ



チョコレート



育児用粉乳

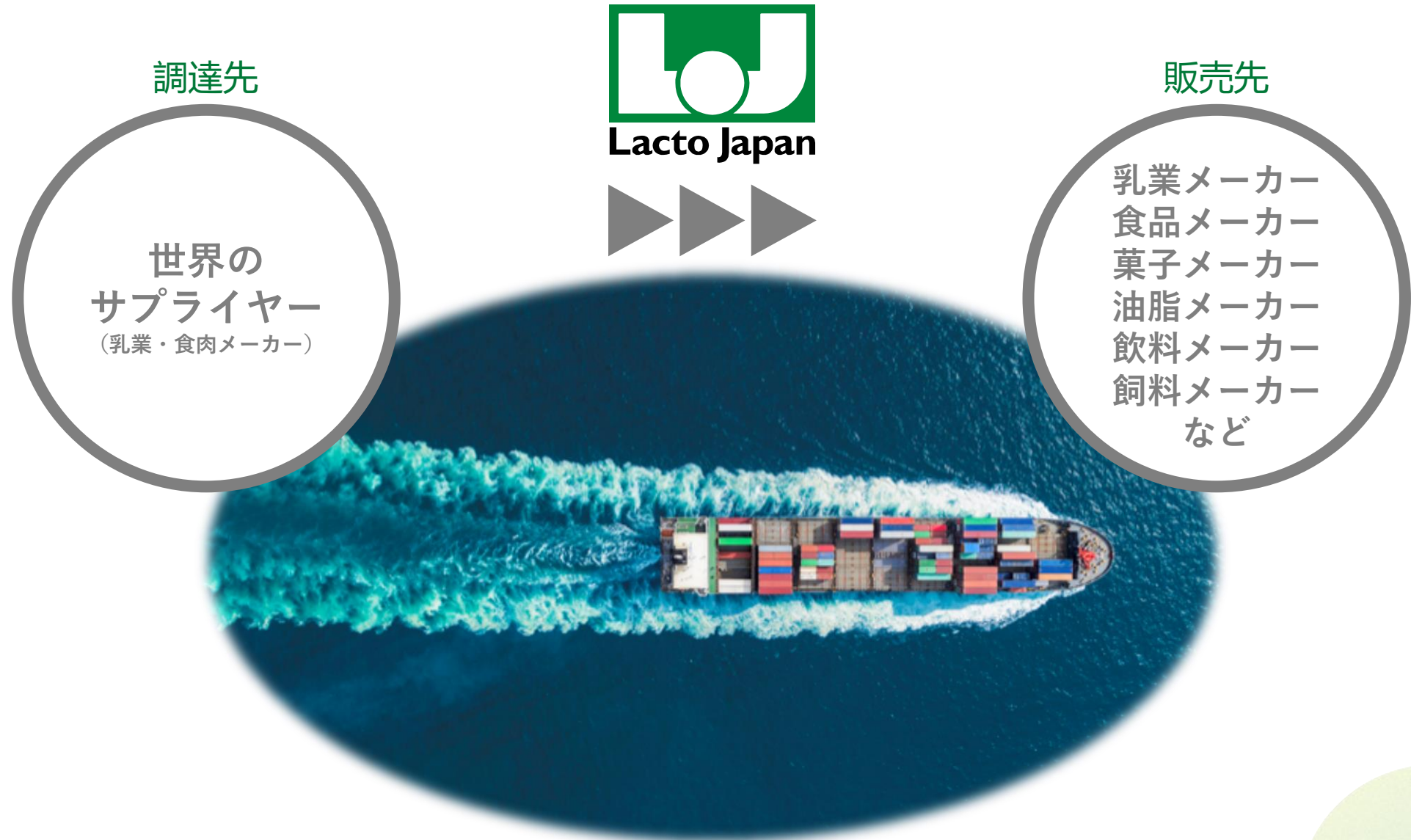


スポーツプロテイン

上記以外にも、畜産業で使われる「飼料」や、ハム・ソーセージの結着材など乳原料の用途は広範囲にわたります。

— 世界のサプライヤーと日本のメーカーをつなぐBtoBビジネス

- 複雑な関税制度、厳しい品質基準への対応しつつ、販売先のニーズに合った原料を安定的に調達・提供



アジア事業・その他

17.8% (282億円)

海外で調達した乳製品原料をアジア地域で販売するとともに、自社ブランドのチーズの製造販売も行っている。「その他」には機能性食品原料販売も含む。



食肉食材部門

11.5% (182億円)

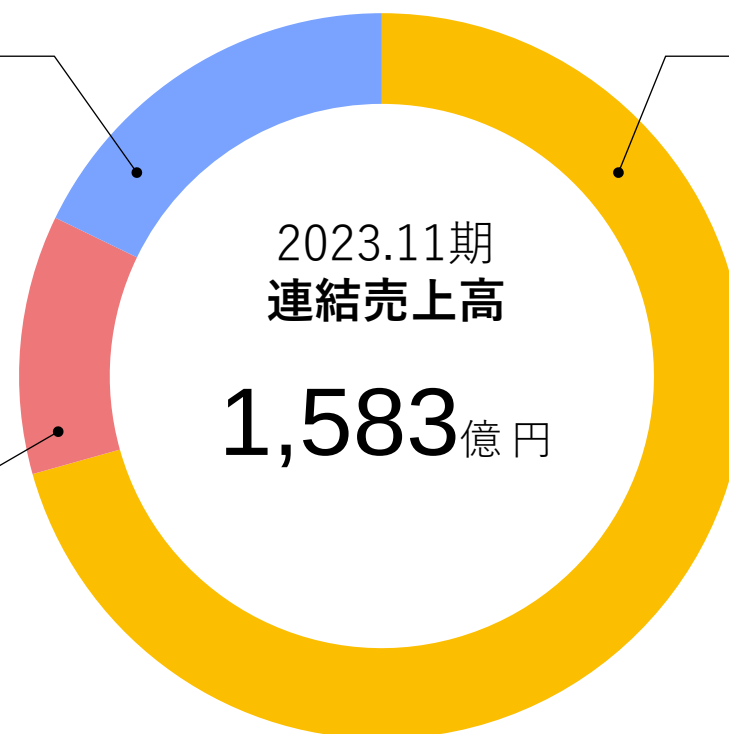
海外から豚肉を中心とした食肉と、生ハム・サラミなどの加工品を仕入れ、国内の食品メーカー、卸売会社などへ販売。



乳原料・チーズ部門

70.6% (1,118億円)

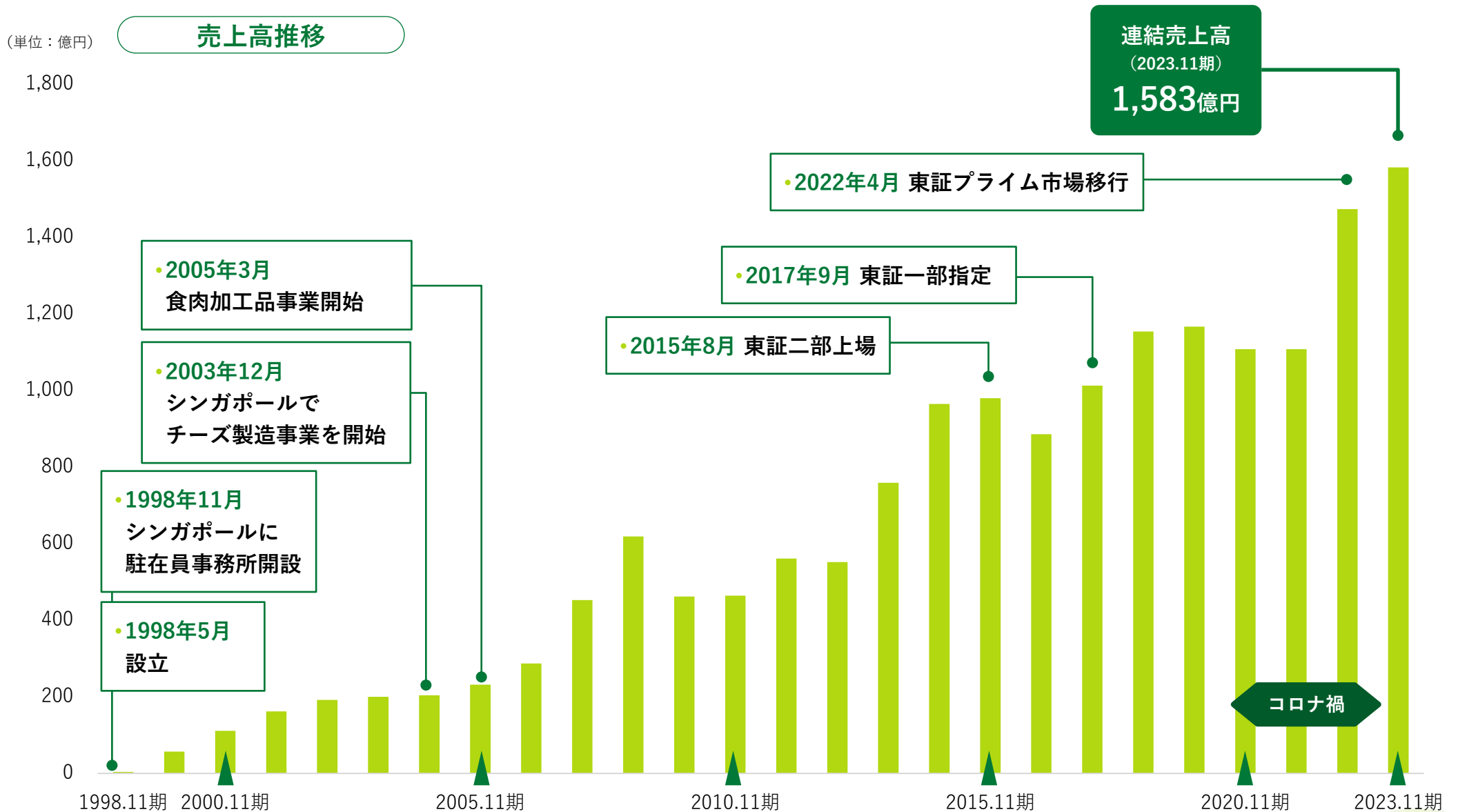
海外から乳原料やチーズを仕入れ、日本国内の乳業・菓子などの食品、飲料、飼料メーカーなどに販売。



(注) 構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
また、売上高は億円未満切り捨てとして表記

ラクト・ジャパンの歩み

●乳原料・チーズ事業をベースに業容を拡大しながら着実に成長



(注) 1998.11期～2012.11期：単体売上高／2013.11期以降：連結売上高

02 ラクト・ジャパンの特徴と強みは？

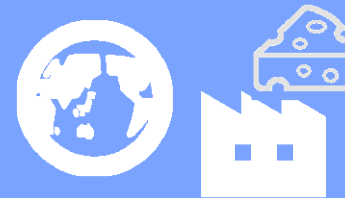
— ラクト・ジャパンの特徴と強み



輸入乳製品の取り扱いでは
国内トップクラスの
シェア



グローバルな
調達ネットワーク



アジアにおける
商社×メーカーの
ハイブリッド経営



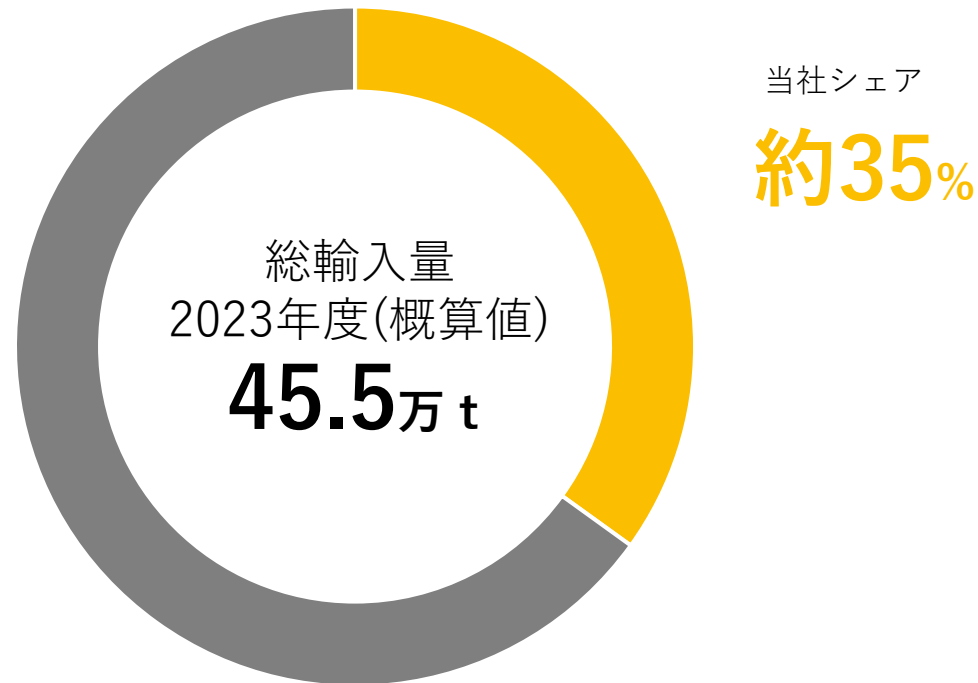
輸入乳製品の取り扱いでは
国内トップクラスの
シェア

●国内随一の販売力

輸入乳製品の取り扱いでは国内トップクラスのシェア



輸入乳製品（飼料向け含む）に占める当社取り扱いシェア



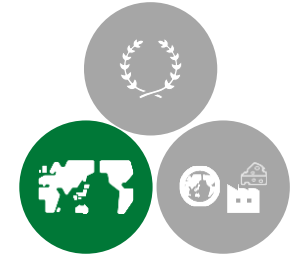
（出典）農林水産省「食料需給表」を参照のうえラクト・ジャパン作成
輸入総量を固形換算し（係数0.1）シェアを計算

- 世界の優良なサプライヤーから乳製品を調達
- 多様な調達先を確保し、安定供給を担保

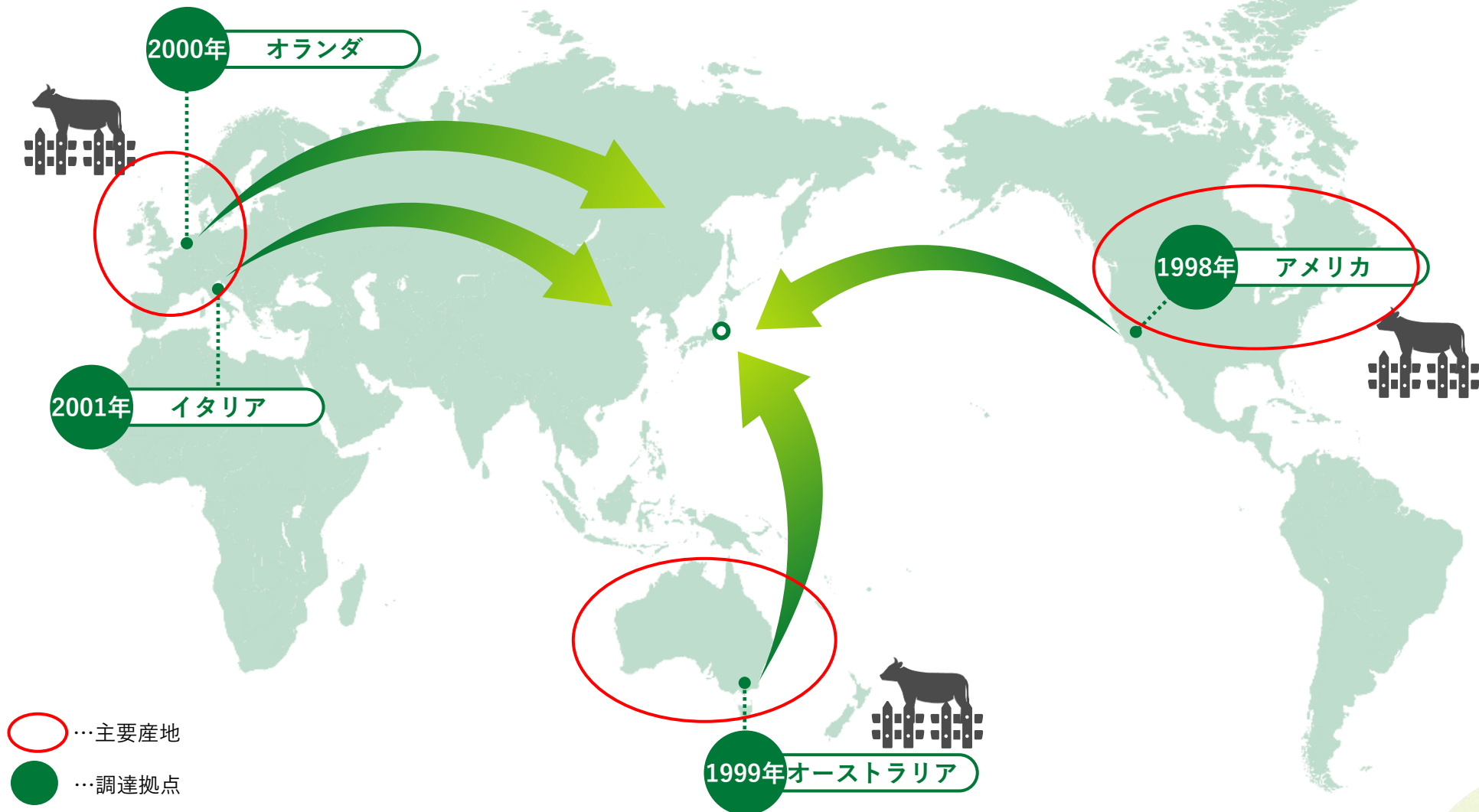


グローバルな調達ネットワーク

- 世界の主要産地から乳原料を調達
- 主要産地には現地法人を展開

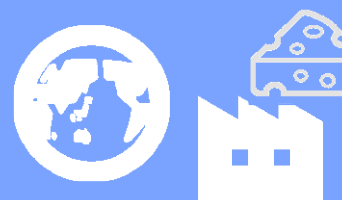


乳原料の主要産地と当社の調達拠点



* 西暦は拠点開設・現地法人設立年

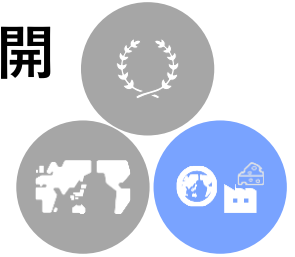
- 成長市場であるアジア地域における販売力
- 卸売業より利益率の高いメーカー事業が利益貢献



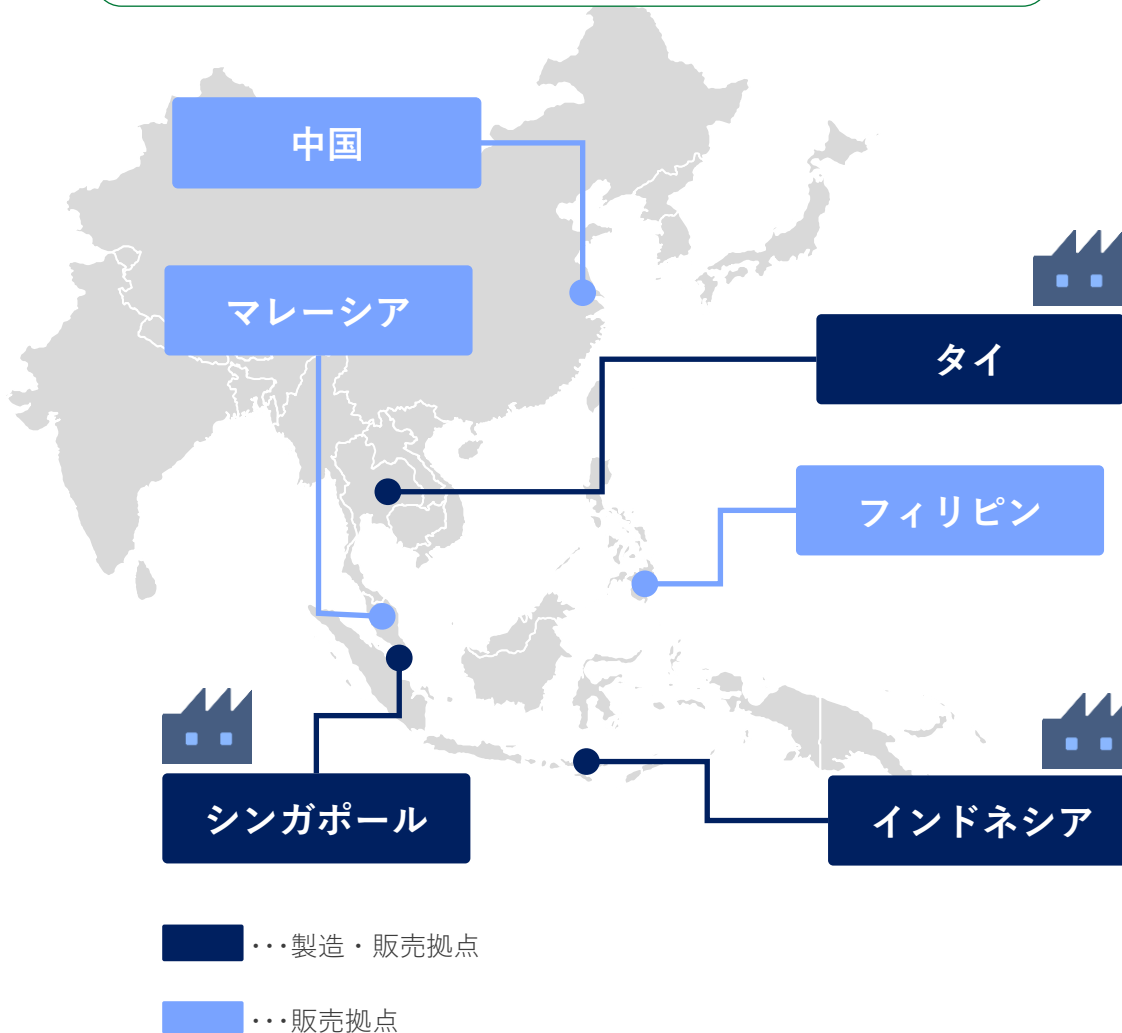
アジアにおける
商社×メーカーの
ハイブリッド経営

アジアにおける商社×メーカーのハイブリッド経営

- アジアでは、乳原料販売事業に加えてチーズ製造販売事業も展開
- 自社工場で作るプロセスチーズを食品メーカーに販売



アジアにおける当社の製造・販売拠点

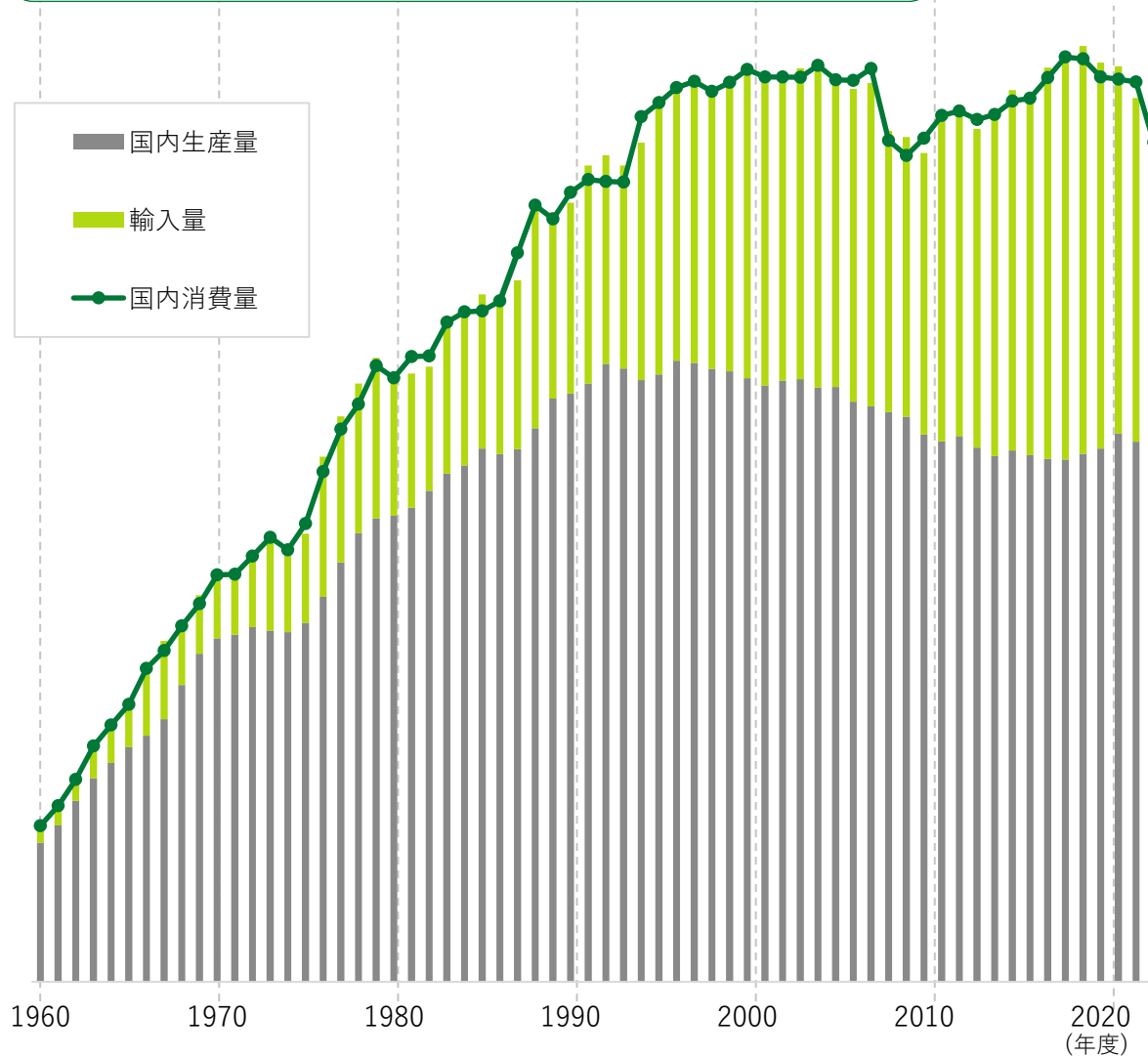


03 日本は乳製品原料をどれくらい 輸入しているのでしょうか？

乳製品の消費・国内生産・輸入量のバランス

- 消費される乳製品原料は、約38%が輸入でまかなわれている

牛乳・乳製品消費量と国内生産・輸入の状況



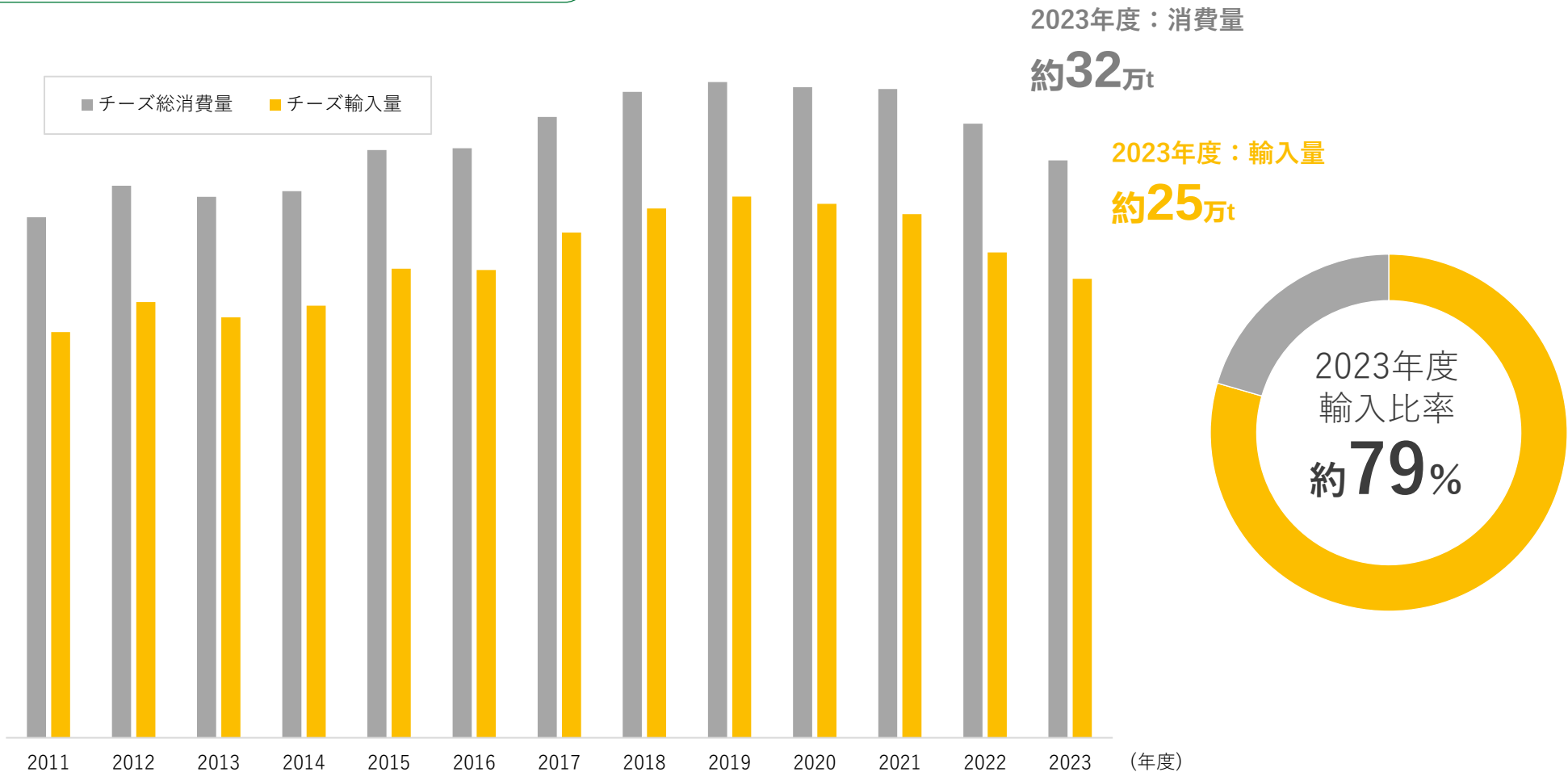
(出典) 農林水産省「食料需給表」より (2023年は概算値)

(注) データは生乳換算、食料+飼料用合算値

— チーズの消費量に対して輸入比率は79%

- コロナ後の経済活動再開で、外食向けを中心に業務用需要が回復傾向。

チーズの消費と輸入量推移



(出典) 農林水産省「チーズの需給表」より

(注) ①「輸入比率」はチーズ総消費量に占めるチーズ輸入量（ナチュラルチーズ+プロセスチーズ）の比率
② 最新年度は速報値。

- 日本は乳製品原料をどれくらい輸入しているのでしょうか？

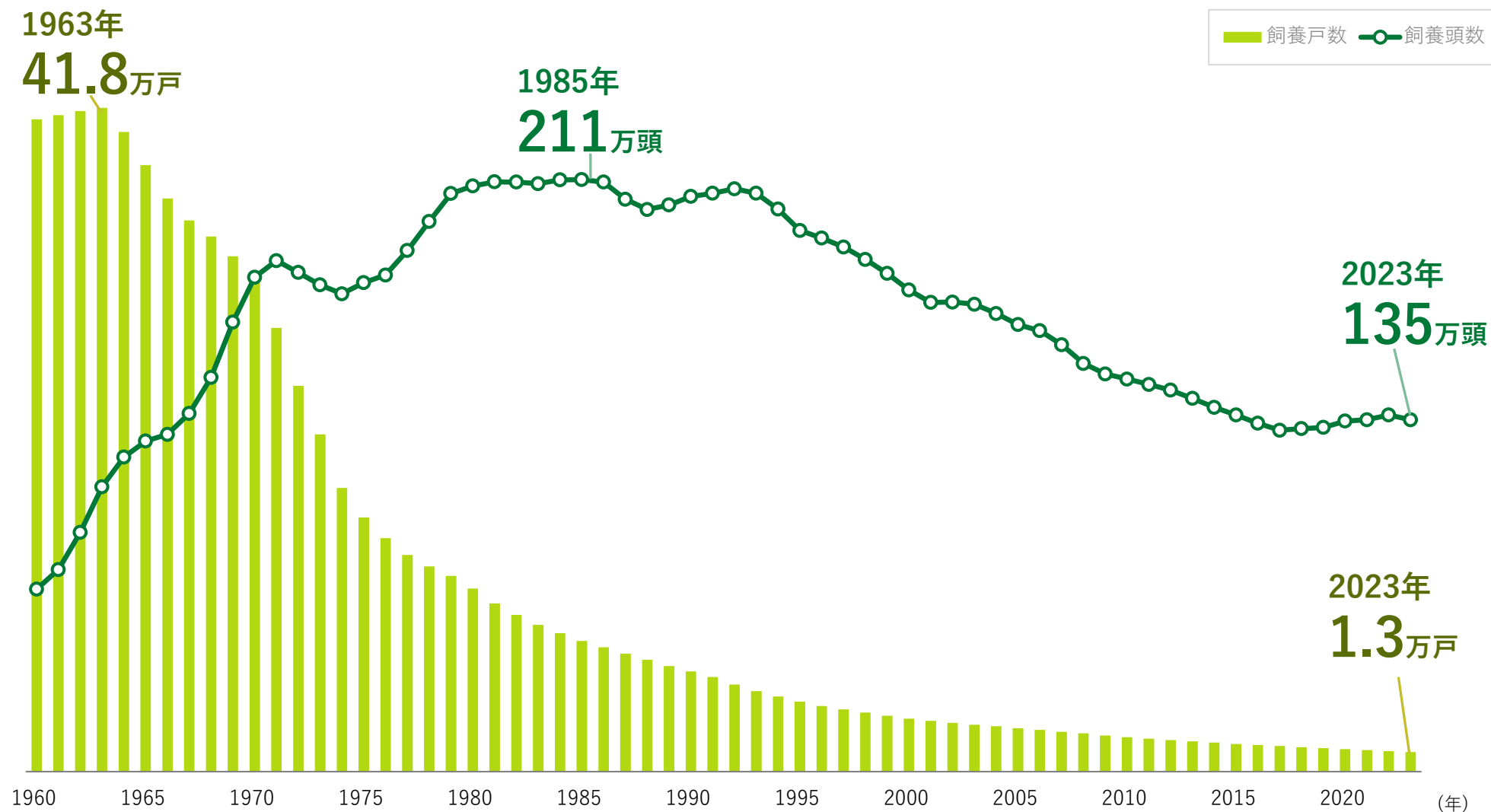
- 乳製品原料の輸入比率は約38%、チーズについては約79%が輸入品でまかなわれています

- このように、日本の乳製品消費は輸入原料によって支えられています

04 乳製品原料・豚肉の輸入は 今後増えますか？

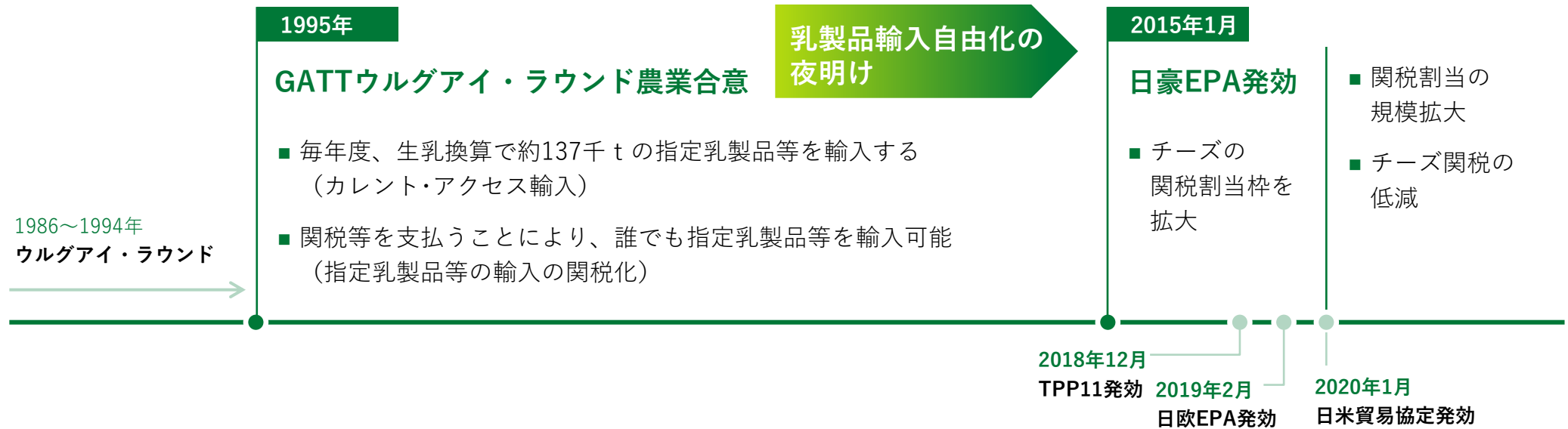
国内酪農業の生産能力は低下傾向

乳用牛飼養戸数・頭数

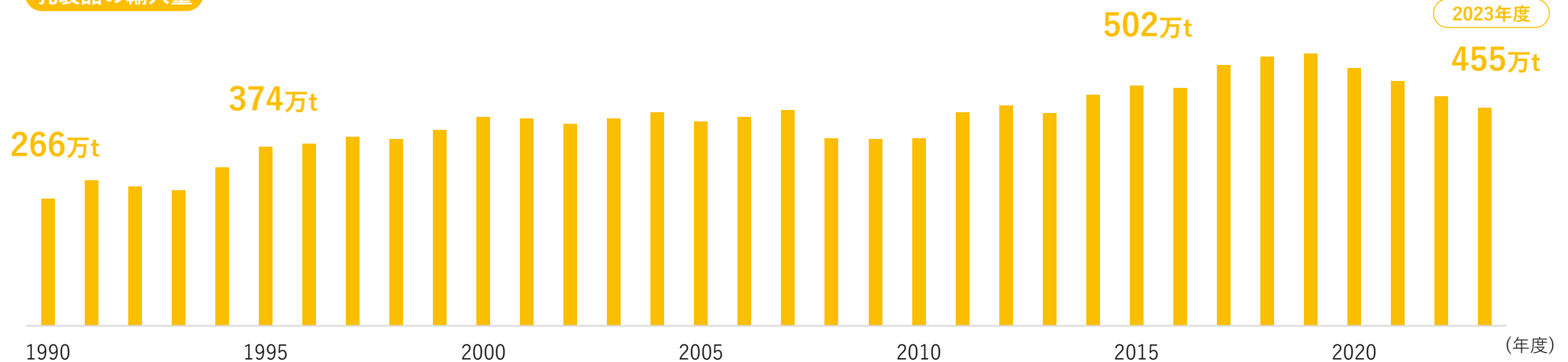


(出典) 農林水産省 畜産統計「乳用牛飼養戸数-頭数累年統計」より

貿易自由化の進展とともに乳製品原料の輸入量は増加



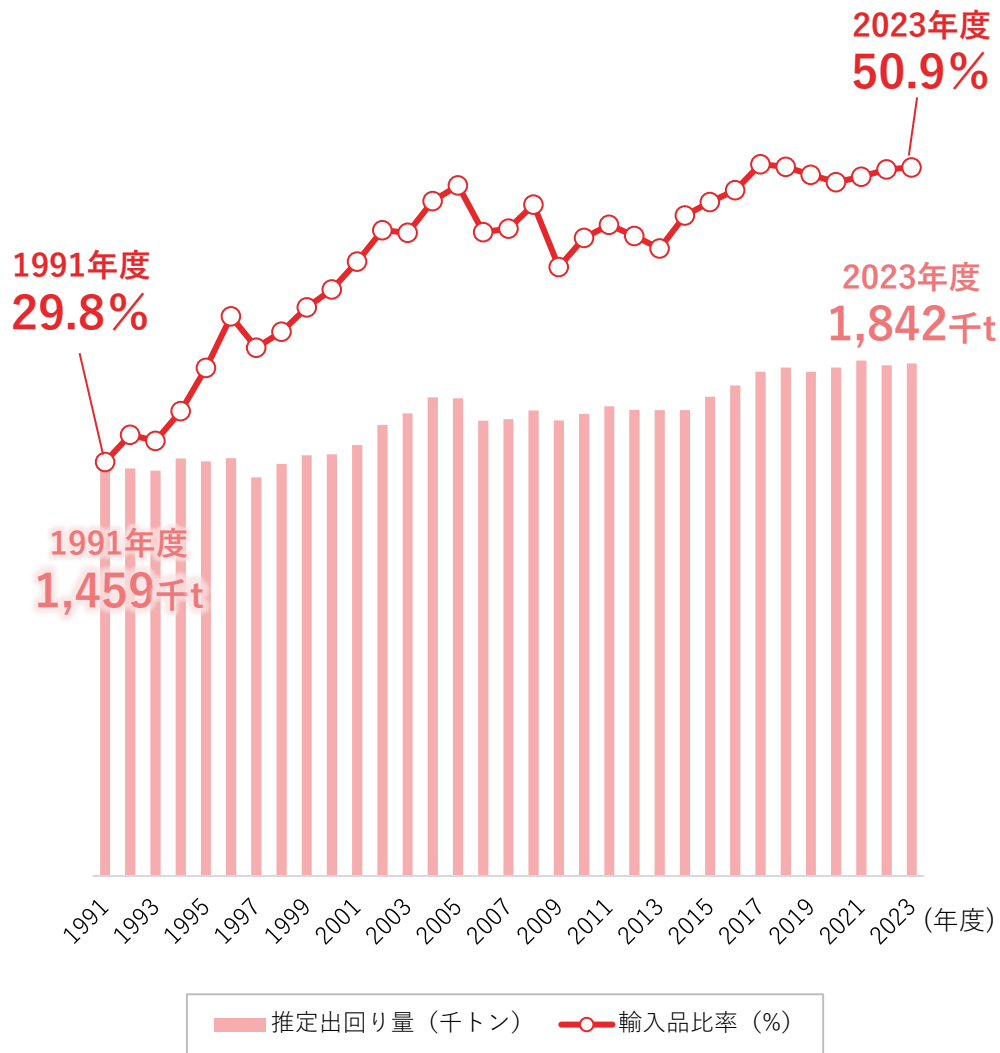
乳製品の輸入量



（出典）農林水産省「食料需給表」より
（注）データは生乳換算、食用＋飼料用

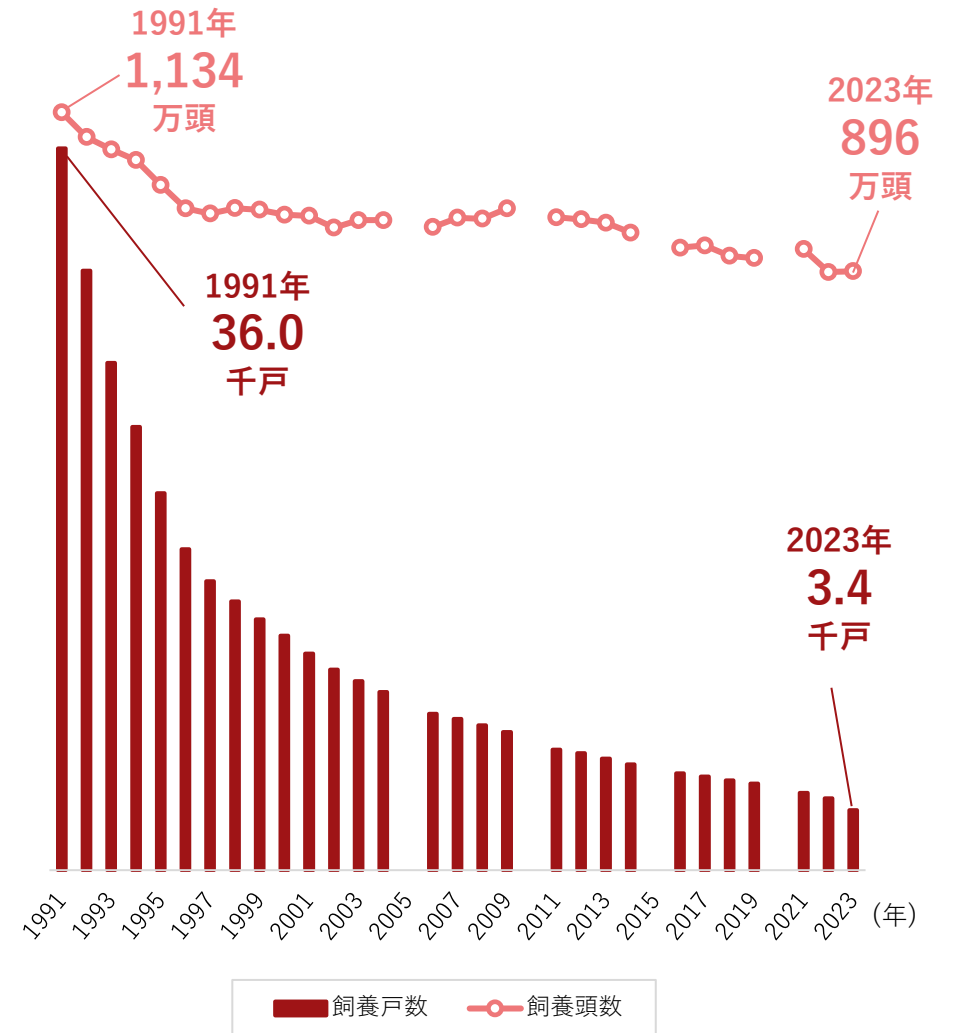
輸入豚肉の比率は約50%、国内の豚の飼養戸数は減少傾向

豚肉の需要(出回り量)と輸入品比率



(出典) 「豚肉需給表」 (独法) 農畜産業振興機構より

豚の飼養戸数・頭数



(出典) 「豚の飼養動向」 (独法) 農畜産業振興機構より

1. 各年2月1日現在
2. 2005年、2015年及び2020年は農林業センサス、2010年は世界農業センサス実施年のため調査休止。

- 乳製品原料・豚肉の輸入は今後も増えますか？

- 日本の酪農・畜産をめぐり、貿易自由化の進展を鑑みると、乳製品原料・豚肉ともに今後も輸入が増加する可能性が高いと考えています

05 成長に向けた取組み（中期計画の基本方針）

中期経営計画「NEXT-LJ 2025」の基本方針と重点施策

中期経営計画 NEXT-LJ2025

Challenge
次世代ビジネスの構築

Growth
アジア事業の拡大

Base
既存ビジネスの「進化」

ポイントとなる重点施策

機能性食品原料など
新たな商材の取り扱い

アジア・チーズ製造販売事業の
拡大

サプライソースの多様化による
安定供給

中期経営計画 NEXT-LJ2025

Challenge
次世代ビジネスの構築

Growth
アジア事業の拡大

Base
既存ビジネスの「進化」

ポイントとなる重点施策

機能性食品原料など
新たな商材の取り扱い

アジア・チーズ製造販売事業の
拡大

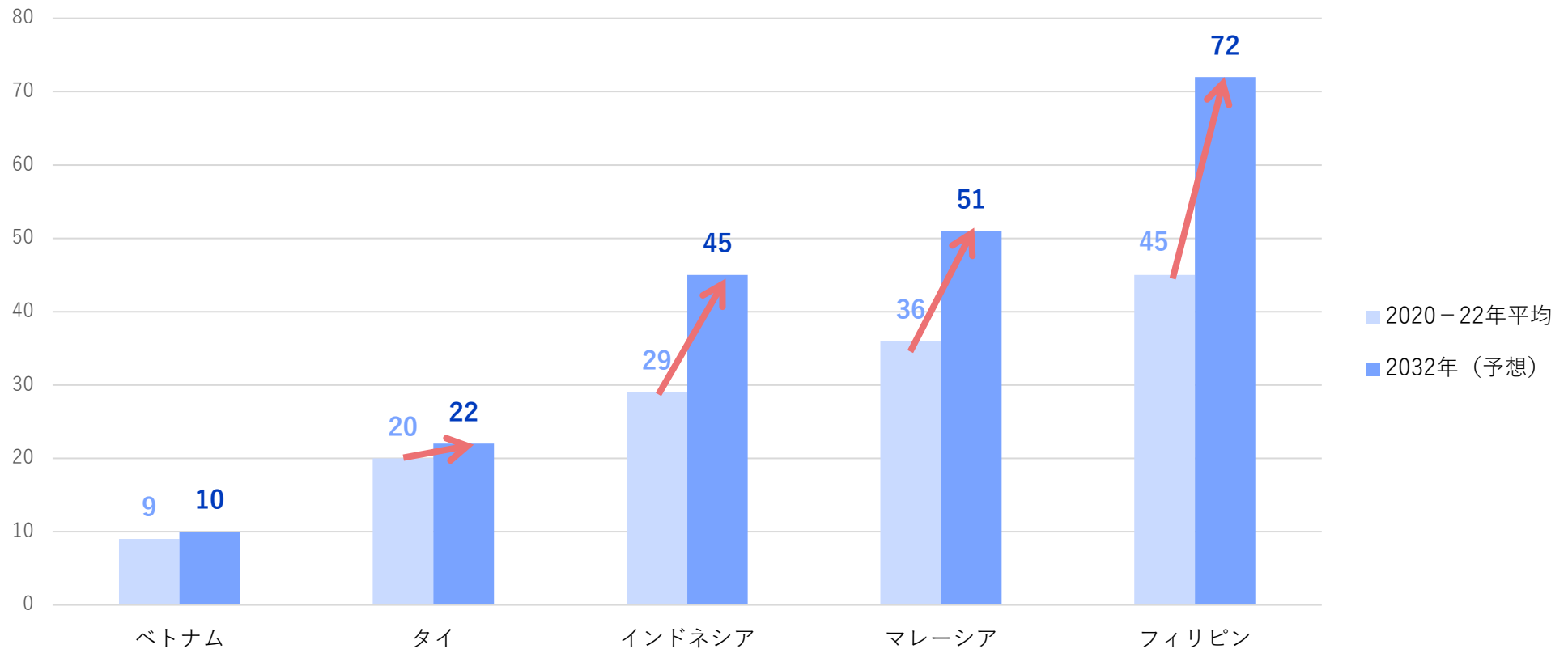
サプライソースの多様化による
安定供給

Growth：チーズ製造販売事業の拡大

●アジア地域のチーズ消費は今後も拡大が見込まれる

アジア地域（アセアン諸国）のチーズ消費量の予測

（単位：千トン）



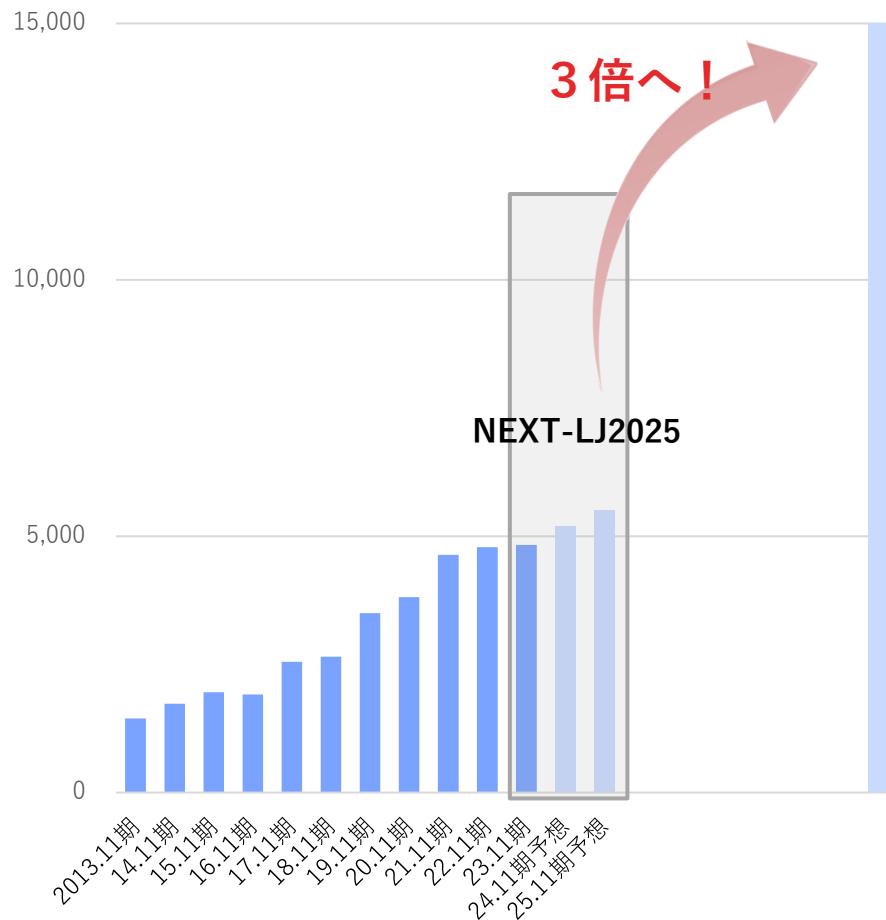
（出典）「OECD-FAO 農業アウトルック 2023-2032」より一部抜粋

Growth：チーズ製造販売事業の拡大

●アジアにおけるチーズの販売数量を増加を目指す

アジア・チーズ製造販売事業の販売数量

(単位：トン)



(注) 2023年以降は概算の計画値

グループ製造能力を将来は3倍へ

- シンガポールに新工場建設 (現工場から移転)
- 製造工程の自動化推進

取扱商品のラインナップ拡充

- メインのプロセスチーズに加えて、シュレッドチーズの取り扱いを強化
- 小売向け商品の開発にも挑戦

中期経営計画「NEXT-LJ 2025」の基本方針と重点施策

中期経営計画 NEXT-LJ2025

ポイントとなる重点施策

Challenge
次世代ビジネスの構築

機能性食品原料など
新たな商材の取り扱い

Growth
アジア事業の拡大

アジア・チーズ製造販売事業の
拡大

Base
既存ビジネスの「進化」

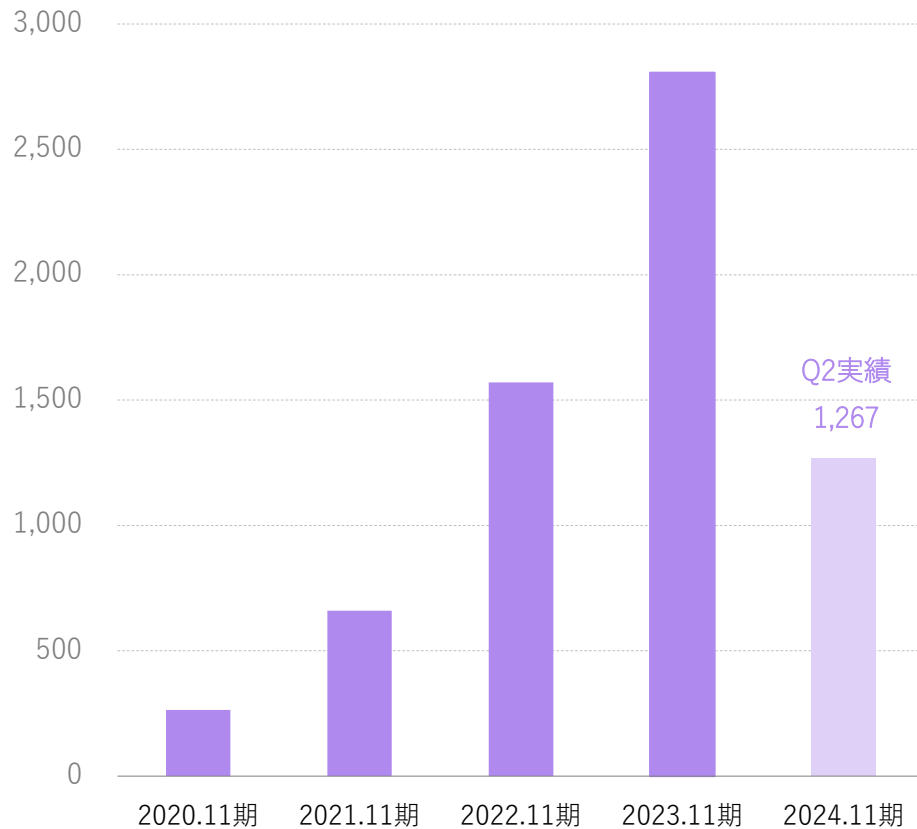
サプライソースの多様化による
安定供給

Challenge : 機能性食品原料事業の拡大

●依然として需要拡大が続くプロテインを中心に販売

機能性食品原料部門の販売数量推移

(単位：トン)



■得意とする乳原料のなかから、高たんぱくの
プロテイン原料の販売を拡大

■原料の輸入販売にとどまらず、OEM生産が
可能なパートナーと最終製品の企画・開発・
製造まで行い、付加価値の高いビジネス展開
を模索中



● 成長に向けた取組みは？

- 中期経営計画の重点施策に沿って取組みは順調に進捗しています
- 成長戦略の柱であるアジアのチーズ製造販売事業においては、生産能力の拡大に向けた投資を決定し、新工場の建設を進めています。
新工場は2026年11月期より稼働開始予定です。
- 国内では、機能性食品原料販売部門において、市場拡大が期待されるプロテイン原料の販売活動を強化しています

06 長期ビジョンと中期経営計画

Corporate Brand

みらいを育む

経営理念

Purpose

世界を食で繋ぎ、
人々を健康に、そして笑顔にする

Mission

食の基盤である一次産業の未来に貢献する
乳製品の新たな需要を創造する
ステークホルダーすべての豊かな生活を実現する

Value

フェアであれ

パーパス
(ありたい姿)

ミッション
(未来に向けた使命)

バリュー
(大切にしている価値観)

長期ビジョン

●2032.11期の長期ビジョン

スローガン

- 乳製品専門商社から複合型食品企業へ
- 乳製品取扱高日本一、そして世界一へ
- ベストマッチングで需要を創造、酪農・畜産業発展への貢献

計数目標

連結経常利益

60億円

(2023.11期 実績) 28億円

海外比率 (連結経常利益ベース)

40%

(2023.11期 実績) 27%

乳製品取扱高 (グループ合計)

45万t

(2023.11期 実績) 21万t

ESG目標

- 6つのマテリアリティを特定し、個別施策と定量目標（一部）を設定

中期経営計画「NEXT-LJ 2025」の計数目標と進捗

- 第2四半期決算時に、2024年11月期通期見通しを上方修正。中期経営計画の経常利益目標は2年目に前倒しで達成の見込み。あわせて配当も見直し、期初予想より14円の増配を予定。

	2023.11期 (実績)	2024.11期 (予想) 7/12修正値	中期経営計画「NEXT-LJ2025」		
			2023.11期 (計画)	2024.11期 (計画)	2025.11期 (計画)
連結売上高	1,583億円	1,640億円	1,600億円	1,800億円	2,000億円
連結経常利益	28.5億円	41億円	32億円	36億円	40億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	20.5億円	30億円	23億円	26億円	29億円

	2023.11期（実績）	2024.11期 （計画） 7/12修正値	2024.11期 （予想） 期初	2025.11期 （計画） 中期計画目標
ROE	8.7%	—	—	10%以上
1株当たり配当金 （中間／期末）	48円 （24円／24円）	76円 （31円／45円）	62円 （31円／31円）	—
配当性向	23.2%	25.2%	25.7%	20～25%
連結自己資本比率	34.2%	—	—	30～35%

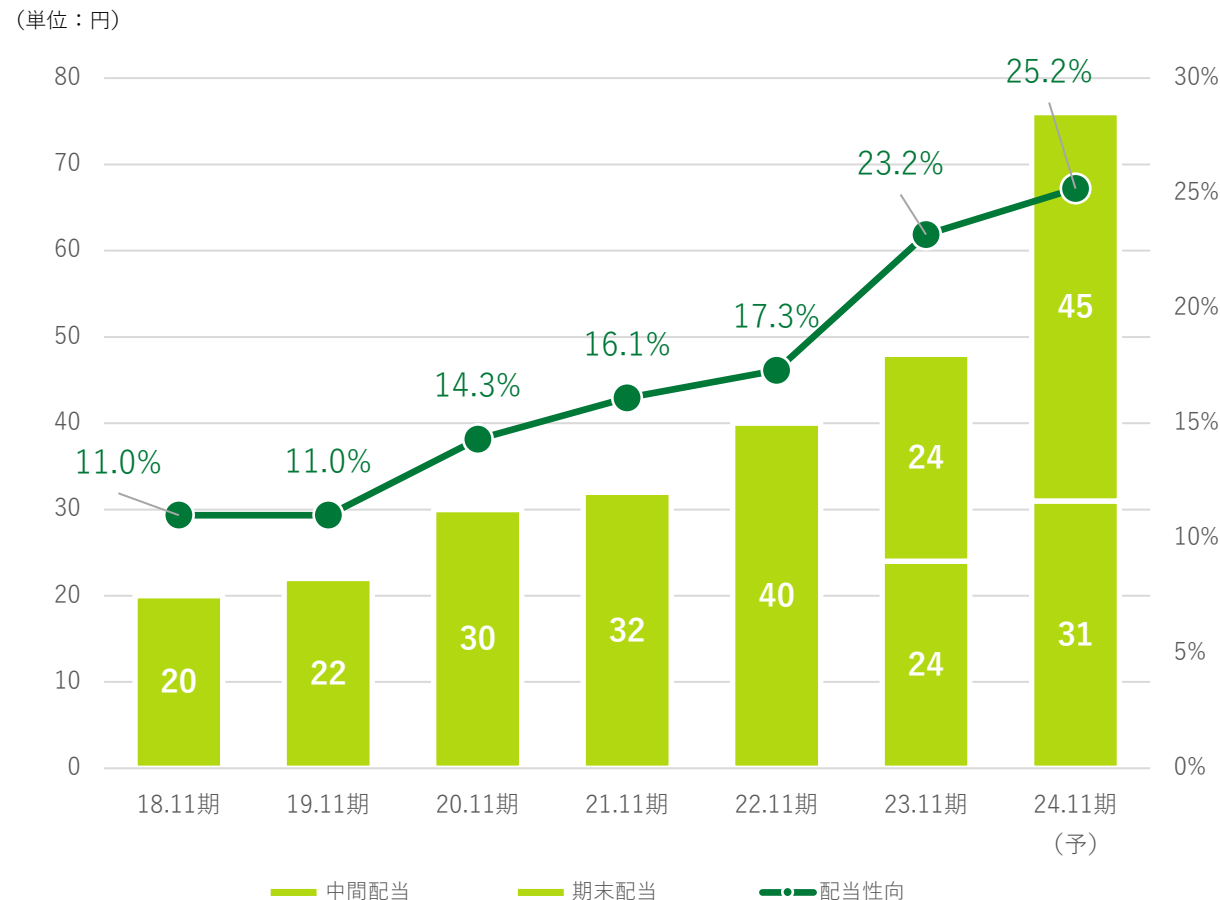
07 株主還元と株主優待について

株主還元について

●株主還元を重視しています。今後も配当性向の向上を目指します

一株当たり配当金および配当性向

継続した事業運営および成長分野への投資、さらには収益力強化に向けた事業基盤の強化などにより、自己資本の充実を図るとともに、株主の皆さまへの利益還元を最重要政策と位置付け、今後も増配を目指します。また、2023.11期より中間配当を実施しました。



株主優待について

- ファン株主になっていただくために、株主優待制度を導入しています

株主優待制度

所有株式数	100株	
継続保有期間	3年未満	3年以上（*）
優待内容	QUO カード 1,000円分を贈呈	当社選定カタログに記載する3,000円相当の商品6点の中から、ご希望の商品を1点選択
進呈回数	1回（割当基準日：11月末日）	

*継続保有期間3年以上とは、株主名簿基準日（5月31日および11月30日）の株主名簿に連続7回以上記載または記録された同一株主番号の株主さまをいいます。



— 2023年度の優待カタログ（継続保有期間3年以上の株主さま向け）



チーズの王様と呼ばれ高い知名度を誇るイタリアのパルミジャーノレジャーノから、クリームチーズフルーツ&ラムのデザートチーズまで各種取り揃えました。

〈三祐〉

チーズセット

パルミジャーノレジャーノ 150g
ルスティックブリーカット 115g
クリームチーズフルーツ&ラム 200g
サムソーカット 200g
賞味期間は冷蔵で30日

冷蔵便



バターをふんだんに使った生地を焼きあげ、ロール状に巻いた濃厚なバターの風味が魅力のシガールをはじめ、上品な甘さのクッキーが変わらぬ人気を誇ります。

〈YOKU MOKU〉

アソルティモン ドウ ビスキュイ

シガール×20本
ドゥーブル ショコラオレ×22枚
※お届けは3月15日～10月15日。

常温便 小 卵 乳



乳脂肪を破壊せず、そのままヨーグルトにしました。自家産生乳100%と国産の「てんさい糖」だけで作っています。

〈MILK'ORO〉

ヨーグルト3本ギフト

MILK'OROヨーグルト 200g×3
賞味期間は冷蔵で23日

冷蔵便 乳



フランス国家最優秀職人章「M.O.F」受賞の女性天才シェフ、アンドレ・ロジェ監修の4種類の味を楽しめるアイスギフトです。

〈銀座京橋 レ ロジェ エギュスキロール〉

銀座アイスバラエティ8個セット

バニラ・チョコ・マンゴー・フランボワーズ
各74ml×各2

冷蔵便 卵 乳



創業100年以上の町村農場の自家産生乳から作ったバター。豊かな風味と後味で、全国に愛好者がいる逸品です。パンにたっぷり塗ってお召し上がりください。

〈町村農場〉

特製新鮮純良バターセット

新鮮純良バター 200g×2

冷蔵便 乳



オリジナルのたれと炭火で付け焼きをした香ばしい焼豚です。スライスしておつまみにしたり、チャーハンなどの具材としてご賞味ください。

〈トンデンファーム〉

炭火焼 焼豚セット

炭火焼 焼豚 200g×2

冷蔵便 小 卵 乳



【アレルギー物質の表示について】食品衛生法がラベルへの表示を義務付けている、「特定原材料7品目」のアレルギー物質について、商品に含まれる品目をマークで記載しております。

●…小麦を含んでいる商品 ●…卵を含んでいる商品 ●…乳を含んでいる商品 ●…そばを含んでいる商品 ●…えびを含んでいる商品 ●…かにを含んでいる商品 ●…落花生を含んでいる商品

ラクト・ジャパンとは・・・

- ✓ 乳原料・チーズを中心に食肉・加工品なども扱う食品原料の輸入商社
- ✓ 乳原料・チーズの輸入では、国内トップクラスのシェア
- ✓ 調達力と専門性が強みの源泉
- ✓ 拡大するアジア乳製品市場での事業展開が成長ドライバー
- ✓ 機能性食品原料などの新商材取り扱いにより、さらなる成長を目指す



投資の基本情報

最近の株価

3,165円

(2024年8月28日終値)

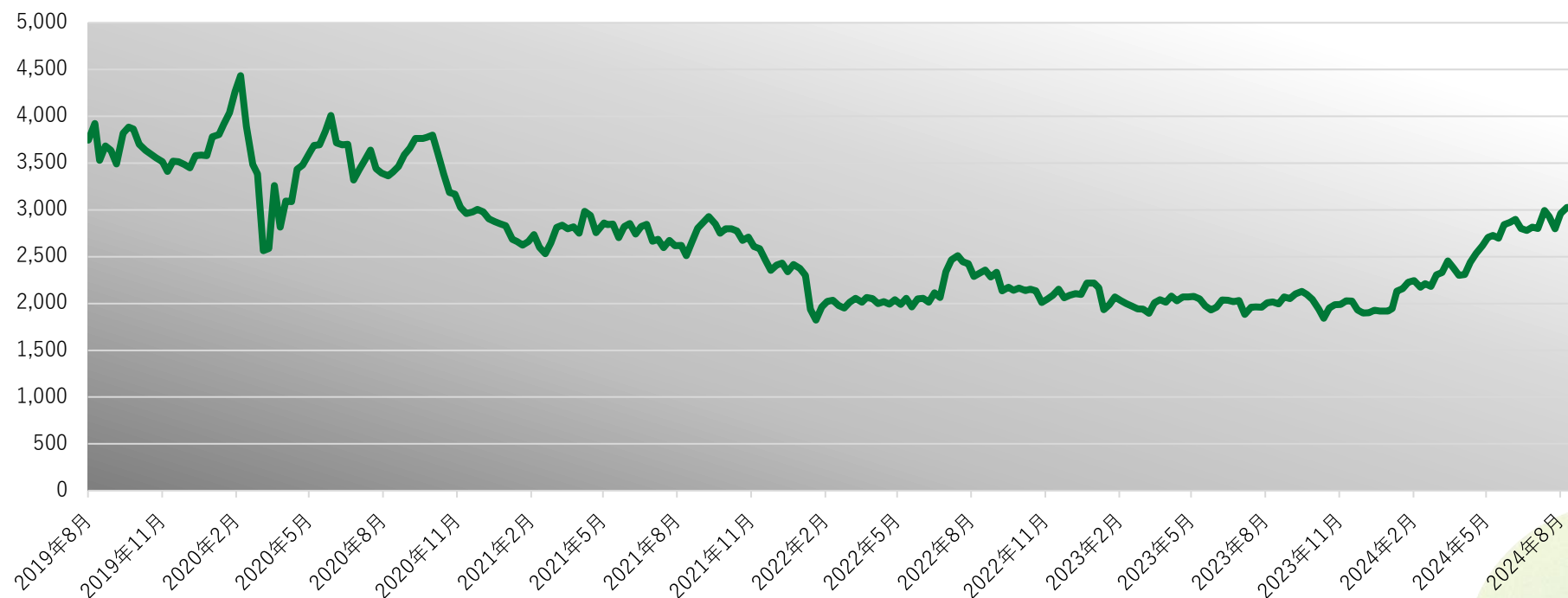
最低購入代金 316,500円

(注) 右表の1株当たり指標は2024年8月●日の終値ベース
PBR、ROEは2023年11月期末ベース

市場	東証プライム市場
証券コード	3 1 3 9
単元株数	100株
1株当たり配当金 (予)	76円
PER (連結・予)	10.51倍
PBR (連結)	1.17倍
ROE (連結)	8.70%
株主優待	あり

ラクト・ジャパン株価推移 (週足)

(単位: 円)





株式会社ラクト・ジャパン

東京証券取引所 プライム市場

証券コード 3139

質 疑 応 答



株式会社ラクト・ジャパン
コーポレートサイト

ご清聴ありがとうございました。

ご注意事項

本資料には、当社の戦略や見通しなど将来の業績に関する記述が含まれております。

これらは現時点における当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

経営環境の変化など、さまざまな要因により変更されることがあります。

あらかじめご了承ください。